

看護技術における安楽の意味

－身体的ケアとしての気持ちよさ (comfort) との比較検討－

古藤みどり

要 旨

研究の目的は、看護技術において用いられている安楽という用語について、わが国の看護技術関係の文献において、どのように使用されているか使用頻度の側面から検討し、看護技術における安楽の意味内容を明らかにすることである。

方法は、医学中央雑誌(Web版)を使用し、遡及範囲は1994年から2003年までの10年間とした。検索キーワード「看護」「技術」「安楽」で検索し、合計60件を抽出した。日本看護科学学会看護学術用語における安楽の意味をベースとして、文献に使用されている安楽の意味を導き出した。

その結果、安楽の意味は1. 満足した生活環境、2. 体位による緊張や痛みの軽減、3. 不安を軽減し、苦痛・不快がない、疲労を生じない、4. 患者が知覚する心地よさ、5. 精神的なケアの5カテゴリーとして導かれた。看護技術における安楽とは、はじめに精神的なケアを目指していた、これは体位による緊張や痛みの軽減や患者が知覚する心地よさという状態と相互作用していた。体位による緊張や痛みの軽減は不安を軽減し、苦痛・不快がない、疲労を生じないと関連し、これらは満足した生活環境へと導かれていた。5カテゴリーのひとつである患者が知覚する心地よさは、ヴァージニア・ヘンダーソンの考える身体的ケアとしての気持ちよさ(安楽)に類似していた。

Key words : 看護技術, 安楽, 気持ちよさ

I. はじめに

看護における安楽は、安全とともに看護ケアを行う際の必須条件である^{1) 2)}。安全は危険でない状態であり、安楽は身体的、精神的に苦痛がなく不安が軽減される状態であるといえる。病にある人の苦痛を軽減し、生命を守ることは看護行為の基本である。F. ナイチンゲールは患者の生命力が増して回復へ向かっている状態を安らぎ(安楽 comfort)であると述べている³⁾。また日常生活行動の援助における安楽として安楽な体位の重要性が述べられている。日本看護科学学会看護学術用語検討委員会(第6期)の用語検討結果⁴⁾において、清潔援助の中の洗髪の安楽においても、洗髪方法の選択にあたって安楽性を考慮した体位があがっているが具体的な体位は記されていない。

一般的に安楽ということばの意味の捕らえ方はさまざまである。だがこれらは患者にとっての安楽を表していると思われる。しかしながら具体的に患者はどのような状態であるのかということについて触れられているものは少ないように思う。また安楽はきわめて主観的な側面をもっていることから、どのような看護行為を提供することがその患者にとっての安楽、個々の患者が知覚する安楽をもたらすのかといった、つまり看護は人間と人間との間で行われ

ていることから、患者が知覚する安楽と看護者が提供する安楽について知る必要がある。先行研究では、看護技術における安楽の意味内容の要素を明確にしたものや、どのような関係にあるのかその関連を明らかにした研究は見出せなかった。

そこで、本研究では看護技術に関する安楽を扱っている文献を検討し、看護技術における安楽の意味内容の要素と看護技術における安楽の意味内容の各要素がどのような関係にあるのかその関連を明らかにすることを目的とした。看護技術における安楽の意味を理解することで、看護を実践する場合の行為である看護技術において看護者が具体的にどのような看護行為をすることが患者にとって安楽につながるのか、看護者が提供する安楽と患者が知覚する安楽との相互関係が深まり、患者は精神的、身体的な苦痛や不安を持ちながらもその患者にとってより安楽な状態で日常生活を過ごすとはどういうことかについて知ることができると考える。

II. 研究方法

1. 文献検討の方法

1) 文献の抽出法

看護技術における安楽に関するわが国における研究の動向をとらえ本研究の安楽の意味を考えるために、

「医学中央雑誌 (Web 版)」を使用し、遡及範囲は1994年から2003年までの10年間とした。文献の抽出法は、検索キーワード「看護」「技術」「安楽」で検索して計60件を抽出した。このうちから安楽の意味を記載している文献25件の原著論文(11)、解説や特集(14)を分析対象とした。

2) 分析方法

①安楽を表現していると思われる内容をできるだけ具体的に抽出した。抽出した内容を意味のまとまりによってデータを区切って分析した。

②安楽について看護技術という観点から発表されている論文を、日本看護科学学会 看護学学術用語における安楽 (ease) の意味⁶⁾を留意し、類似した内容を集め、比較をし、類似している場合はサブカテゴリー化した。

③サブカテゴリーの類似しているものを集め比較をし、カテゴリー化を行った。1)～3)の過程で何度も文献に戻り、内容を吟味しながらカテゴリー化を進めた。

④カテゴリー毎に意味の共通性を探し、安楽の意味を導きだした。

3) カテゴリー分類された安楽の意味内容の変化をもとに安楽の意味するものの関連をカテゴリー別に捉えた。

Ⅲ. 結果

1. 「安楽」の意味するもの

「安楽」を定義していたのは解説や特集14件中3件であった。原著論文11件は安楽について定義していなかった。定義の内容は3件とも「精神的・身体的にも不安、苦痛がない(看護学大辞典 第4版, 1997年)」などの状態を表わしていた。

看護技術における安楽に関する文献にみる研究テーマ別文献数は、①体位・姿勢11(44%)、②身体の清潔3(12%)、③ドレナージによる拘束感2(8%)、④その他9(36%)であった。体位・姿勢の内容は、体位変換・移動・うつ伏せ寝体位・腹囲測定時の体位・人工呼吸器装着者の外出時の移動・輸液中の体位などであっ

表1 安楽の意味

サブカテゴリー (25)	カテゴリー (5)
患者の生活様式を守りつつ生活できる	満足した生活環境
良好な人間関係	
くつろげる環境や雰囲気である	
自然治癒力を高める	
筋肉の緊張が最小の状態	体位による緊張や痛みの軽減
同一体位による障害を予防する	
痛みを緩和し楽な状態	
緊張を和らげる	
説明して了解してもらう	不安を軽減し、苦痛・不快がない、疲労を生じない
不安や恐怖心を和らげる	
苦痛表情が少なくなる	
身体的にも精神的にも苦痛がなく楽々としている	
身体的にも精神的にも不快がない	患者が知覚する心地よさ
患者・看護者の疲労の減少	
皮膚の爽快感	
患者が感じる心地よさ	
看護者のやわらかくあたたかい手	精神的なケア
相手に触れることは相手を元気づける	
相互の気(エネルギー)の交流	
患者を癒し、看護者までも癒す	
個人の成長をもたらす	精神的なケア
気分が良いと思える配慮	
精神的な安寧	
在宅療養に向けての家族の精神的サポート	
ケアの気持を持った会話やまなざし	

た。身体の清潔の内容は、全身清拭・足浴・オストメイトの生活・浮腫、出血傾向のある対象への身体の清潔であった。ドレナージによる拘束感の内容は、胸腔ドレナージ・腹腔ドレナージによるものであった。その他の内容は、氷枕・湯たんぽ・乳房ケア・気功導入・在宅療養への関わり・看護技術による看護者の癒し・心臓手術後の患者の尊重・温熱療法・重症心身障害児への排痰手技などであった。

1) 安楽の意味するものの構成要素

データを分析した結果、安楽の意味は 25 サブカテゴリーが抽出され、5 カテゴリーとして導かれた(表1)。以下、カテゴリーは、<>で示す。各カテゴリーについて説明する。

①<満足した生活環境>とは、・患者の生活様式を守りつつ生活できる、・良好な人間関係、・くつろげる環境や雰囲気である、・自然治癒力を高めるという4サブカテゴリーから、環境面から人間関係に至るまで不安がなく満足した状態であり、健康時の生活リズムにできるだけ近い状態で生活できている状態とした。②<体位による緊張や痛みの軽減>とは、・筋肉の緊張が最小の状態、・同一体位による障害を予防する、・痛みを緩和し楽な状態、・緊張を和らげる、・説明して了解してもらうという5サブカテゴリーから、自分で身体を自由自在に動かすことができない身体の運動制限・制約がある場合、動くことに対する不安や緊張を和らげられるように、動く前に説明し了解してもらい、動く時にも物品を用いて筋肉の緊張や身体の痛みが緩和した対象者に適した楽な体位を保つ状態とした。③<不安を軽減し、苦痛・不快がない、疲労を生じない>とは、・不安や恐怖心を和らげる、・苦痛表情が少なくなる、・身体的にも精神的にも苦痛がなく楽々としている、・身体的にも精神的にも不快がない、・患者・看護者の疲労の減少という5サブカテゴリーから、単に身体的な痛みを軽減したり取り除くことばかりではなく、恐怖心や疲労感、不快感などの精神的に苦痛な刺激も取り除き、そのことによって看護者の疲労が軽減し、また対象者も苦痛表情が減少して身体や心に安心や痛みの軽減の感覚を体験している状態とした。④<患者が知覚する心地よさ>とは、・皮膚の爽快感、・患者が感じる心地よさ、・看護者のやわらかくあたたかい手、・相手に触れることは相手を元気づける、・相互の気(エネルギー)の交流、・患者を癒し、看護者までも癒すという6サブカテゴリーから、病む人へのひとつひとつの看護行為が少しでも心身の癒しにつながるように援助していくには、対象者の状態をその人の動きや表情から総合して観察していき、看護者の表情が緊張せずあたたかい手でその人に触れて不快感を

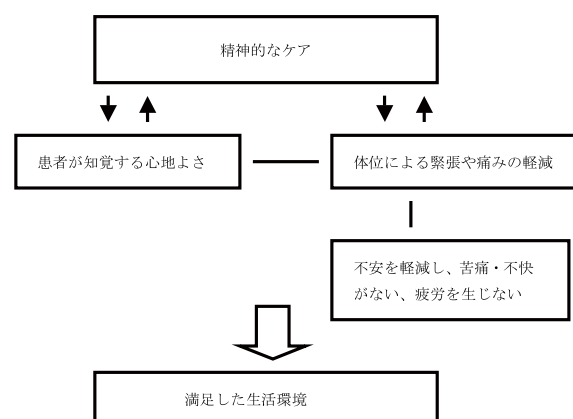


図1 安楽の各側面の関連

取り除いていくなかで、その人が心地よさや皮膚の爽快感を感じている状態とした。⑤<精神的なケア>とは、・個人の成長をもたらす、・気分が良いと思える配慮、・精神的な安寧、・在宅療養に向けての家族の精神的サポート、・ケアの気持ちを持った会話やまなざしという5サブカテゴリーから、病状進行の不安がある中で、希望を持ち続けるためには、ケアの気持ちを持った会話やまなざしで、看護者と家族によって個々の対象者の快い、気分がよいと思えるような配慮や心づかいがなされている状態とした。

2. 安楽の意味するものの関連

安楽の各側面の関連を示す(図1)。まず看護技術における安楽とは、患者の心理面を考え、不安や恐怖心を和らげる思いやりを持って励ましていく<精神的なケア>を目指していた。また精神的なケアは、<体位による緊張や痛みの軽減>や<患者が知覚する心地よさ>という状態と相互作用していた。また、体位による緊張や痛みの軽減と患者が知覚する心地よさとは関連し、体位による苦痛が軽減した状態は患者が心地よさを感じている状態とつながっていた。さらに看護者と患者との良好な人間関係や観察によってより安楽な状態へと導かれていた。また体位による緊張や痛みの軽減は<不安を軽減し、苦痛・不快がない、疲労を生じない>と関連し、精神的・身体的な苦痛を取り除くだけでなく、安心や痛みの軽減した感覚を体験する状態とつながっていた。これらは、さらに<満足した生活環境>という患者の日常生活の精神的・身体的な苦痛や不安がない状態へと導かれていた。<満足した生活環境><体位による緊張や痛みの軽減><不安を軽減し、苦痛・不快がない、疲労を生じない><患者が知覚する心地よさ><精神的なケア>の5つのカテゴリーを統合・整理すると、看護技術における安楽とは、「満足した生活環境のもとで、心身の苦痛や不快がなく、精神的にも不

安が軽減されている状態であり、対象者が知覚する心地よさをづくりだす状態とする」と考えることができた。

IV. 考察

1. 看護者が提供する安楽・対象者が知覚する心地よさ

看護において「安楽」という用語は「安全」と共に看護の目的の1つとされている。しかしながら、具体的に何をすることが患者にとっての安楽であるといえるのか、また患者にとって精神的・身体的にも不安、苦痛がないとは具体的にどのような状態であるかという、これらの問いに対する研究は数少ないように思われる。患者にとっての安楽を考えるために、まず対象者が知覚する心地よさの側面から何をすることが患者にとって安楽につながるのかについて考えてみたい。文献検討によって安楽の意味として導かれた5カテゴリーの1つに「患者が知覚する心地よさ」があった。この看護者の温かい手で触れて皮膚の爽快感を感じたり癒される状態である「患者が知覚する心地よさ」とケアの気持ちを持った会話やまなざしで、個々の患者の快い、気分がよいと思えるような配慮や心づかいがなされている状態である「精神的なケア」とは、相互作用していた。このことは、看護者が個々の患者が気分がよいと思えるように配慮する安楽を提供することによって、対象者は心地よさを知覚することができるということを表していると思われる。それとともに対象者が心地よさを知覚していると感じながら看護者は個々の患者に安楽を提供している、また、もし看護がその人自身が必要としている手助けをする⁷⁾のであるならば、この患者と看護者との関係において患者は、気分がよいと思えるような心づかいや配慮を必要としていると考えることができる。看護行為は、生きている人間の身体と身体の直接的な触れ合いによって成り立つ⁸⁾という側面をもっている。看護者の手が患者の身体に触れるとき、患者が気分がよいと思えるような心づかいや配慮をすることで安楽をもたらすと言える。このことは患者の身体に触れるという目に見える技術を行っている間、患者が気分がよいと思えるような配慮や心づかいという安楽を提供する目に見えない技術⁹⁾があると考えることが出来る。

本研究結果によって、看護者が提供している患者にとっての「安楽」の中に、対象者が感じている「気持ちよさ」があることが考えられた。それと共に、看護者が安楽を提供している時、ケアの気持ちや患者にとって気分よくという感情をもって援助を提供していることが考えられた。

2. 身体へのケアとしての気持ちよさ

V. ヘンダーソンは身体の清潔という看護行為は単に身体を清潔にするという意味だけでなく、気持ち良い (physical comfort) ・患者・看護者関係における気分がよい (psychological comfort) という生理的・心理的な心地よさ comfort をもたらすことを意味すると述べている¹⁰⁾。ヘンダーソンは「看護の基本となるもの」「看護論」において、看護ケアの中の幾多の援助とケアとの関係を一纏まりに構築して書き表しているように読み取れる。その中のひとつに患者が身体を清潔に保つのを助ける時、気持ちよさ (comfort) を与える (安楽の与え手 comforter) ことを身体へのケアとしている (図2)。安楽と comfort では多くの類似点が見られる¹¹⁾ ことが報告されている。安楽<患者が知覚する心地よさ>は「皮膚の爽快感、患者が感じる心地よさ、手で触れる、患者・看護者関係、癒し」、ヘンダーソンの考える気持ちよさ (comfort) は、「身体の清潔援助、身体へのケア、患者・看護者関係、気持ち良い、気分がよい」であり、ヘンダーソンの基本的看護ケアとしての気持ちよさ (comfort) は、上記で文献検討した結果導き出された5つの安楽の意味の1である「患者が知覚する心地よさ」に「身体に触れることで気持ちよさをもたらず、患者と看護者との関係」という類似性があると考えられる。

安楽の与え手 comforter とは、新英和中辞典 (研究社, 1997年) によると慰める人という意味である。慰めるとは、広辞苑 (第4版, 1997年) によると不満な心をしずめ、満足させる、気をまぎらす、なだめる、いたわるといった意味があり、慰めるとは人の心痛を和らげることであり心が満足した状態ととらえられる。病いや親しい者の死によって人生の極度の圧迫や苦闘に耐えている人を慰めるとは、援助者自らも対象者の圧迫を感じ共に苦闘に耐えることが推測される¹²⁾。人は気持ちよさを感じることで心痛を和らげ心が満足した状態へと導かれるなら、心痛を感じている人の身体 (精神 = 身体的存在)¹³⁾ を清潔にするのを助ける時、気持ちよさを与える身体へのケアを提供することは意味があると考えられる。

V. 終わりに

本研究は文献検討から、看護技術における安楽の意味内容と安楽の各側面の関連を導き出し、V. ヘンダーソンの考える安楽である気持ちよさを比較検討したものである。分析の際に、日本看護科学学会看護学術用語における安楽の意味を留意したが、ここでの安楽は ease であり、比較検討した安楽 comfort との相違があることは否めない。

今後の研究課題は、研究を重ねて看護者が提供する安楽と対象者が知覚する安楽との関連を導き出し、病に苦しんでいる人の「気持ちよさ」の意味内容を明らかにしていくことである。尚、本研究は洗髪援助時に対象者から聞かれる気持ちよさ（comfort）（V. ヘンダーソン）を測定するにあたり、それに看護の専門用語である安楽が対応しうるかどうかを検討するために行った。

本研究は平成 15 年度北里大学大学院看護学研究科修士課程に学位論文として提出した内容の一部を加筆修正したものです。本論文は、2004 年日本看護技術学会第 3 回学術集会において発表いたしました。

引用・参考文献

- 1) 川島みどり：Ⅱ看護技術における安楽の位置づけ C 看護技術における二つの視点、(川島みどり), 臨床看護シリーズ 看護技術の安楽性, メヂカルフレンド社, 8-14 (1974)
- 2) 氏家幸子：基礎看護技術Ⅰ 第5版, 医学書院, 144-166 (2000)
- 3) 湯槿ます, 薄井坦子, 小玉香津子：看護覚え書 -看護であること, 看護でないこと-, 現代社, 150 (1996)
- 4) 川島みどり, 他：委員会報告書 生活行動への直接的援助に関する領域の用語検討結果 日本看護科学学会 看護学学術用語検討委員会 (第6期), 日本看護科学学会誌, 22(4), 70-71 (2002)
- 5) 佐居由美：看護実践場面における「安楽」という用語の意味するもの, 聖路加看護大学紀要, 30, 1-9 (2004)
- 6) 薄井坦子, 他：看護学学術用語, 日本看護科学学会 看護学学術用語検討委員会, 6-7 (1995)
- 7) 池田明子：看護実践・教育における対人関係論の活用～ 40 年間の歩みを振り返って～, 日本看護研究学会雑誌, 26(1), 15-21 (2003)
- 8) 川西美佐：看護技術における身体性, 日本赤十字広島看護大学紀要, 3, 9-17 (2003)
- 9) 小西恵美子：科学性と人間性をあわせもつ看護の技術とは, 保健の科学, 39(7), 455-459 (1997)
- 10) Virginia Henderson, R.N., M.A. : Basic Principles of Nursing Care, 1969, 湯槿ます, 小玉香津子：看護の基本となるもの, 第4版, 日本看護協会出版会, 51-53 (1997)
- 11) 佐居由美：和文献にみる「安楽」と英文献にみる「comfort」の比較 -Rodgers の概念分析の方法を用いている日米2つの看護文献レビューから-, 聖路加看護大学紀要, 31, 1-7 (2005)
- 12) 内田雅子：ヴァージニア・ヘンダーソン, (黒田裕子), 改訂版ケースを通してやさしく学ぶ看護理論, 日総研, 79-100 (2004)
- 13) 中村雄二郎：臨床の知とは何か, 第19版, 岩波書店, 168 (2002)

受理 2016 年 3 月 31 日

〈連絡先〉

古藤みどり

〒538-0053 大阪府大阪市鶴見区鶴見 6-2-28

大阪信愛女学院短期大学

E-mail : m-kotou@osaka-shinai.ac.jp